

これらの中で、「絶対にしてはいけない」と答えた者の割合が最も高いのは、空きカン投げ捨てに対する一般群の少年（69.9%）であるが、非行群は約20ポイント低い。約束違反に対しては両群とも約6割の者が「絶対にしてはいけない」と答えている。席をゆずらないは、一般群の少年が42.0%に対して、非行群の少年は35.8%であった。

また、これら反道徳的行為に対して「してもよい」と積極的に肯定する回答をした者の割合は、いずれの行為に対しても一般群・非行群とも10%以下であるが、「時によってはやむを得ないと思う」と消極的ながら肯定する回答をした者の割合は、席をゆずらないに対してが両群ともに約35%、約束違反が両群ともに約30%である。一般群と非行群を比較すると差がなかった。

しかし、空きカン投げ捨てに対しては、非行群の少年の割合の方が一般群に比べ約13%高く「時によってはやむを得ないと思う」と答えている。

また、犯罪や不良行為に対する回答と比較すると、不良行為に対する回答とは傾向にあまり差がないが、犯罪に対する回答とは明らかに違いがあり、犯罪に対してよりも反道徳的行為に対しての方が許容的である。

2 犯罪・不良行為に対する実行予測

ここでは、いろいろな犯罪や不良行為に対してどのくらいしてしまう可能性（実行予測）があるのかを尋ねた結果について述べる。回答は、それぞれの行為に対して、

- 1 一人でもしてしまうかもしれない
- 2 友達に誘われればしてしまうかもしれない
- 3 絶対にしない自信がある

の中から1つを選択するよう求めた。

(1) 犯罪行為

犯罪行為については、次の11の行為について回答を求めた。

- ア 友達のスニーカーや傘を黙って使う【傘等窃盗】
- イ 拾った1,000円を使ってしまう【占脱】
- ウ 道路においてある自転車を黙って使う【自転車盗】
- エ スーパーや店の物を黙って持ってくる【万引】
- オ シンナー遊びをする【シンナー】
- カ 覚せい剤（エス・スピード）を使用する【覚せい剤】
- キ 交通のルールを破って暴走する【暴走行為】
- ク 学校のガラスや戸をわざと壊す【器物損壊】

- ケ 自動販売機から金や物を取る【自販機荒し】
- コ 先生に暴力を振るう【教師暴力】
- サ ナイフで人を刺す【人を刺す】

これらの行為に対して、「絶対しない自信がある」と答えた者の割合の結果を図2-4に、「一人でもしてしまうかもしれない」と答えた者の割合の結果を図2-5に、「友達に誘われればしてしまうかもしれない」と答えた者の割合の結果を図2-6に示した。

犯罪行為に対して「絶対しない自信がある」と答えた者の割合は、一般群の少年では、傘等窃盗（61.7%）や占脱（20.7%）を除くといずれの犯罪行為に対しても約8割を超えている。これに対して、非行群の少年は、暴走行為（48.8%）、万引（47.7%）、傘等窃盗（33.9%）、自転車盗（33.6%）、占脱（9.1%）が5割以下であるが、他の犯罪行為に対しては7割以上の者が「絶対しない自信がある」と答えている。

一方、「一人でもしてしまうかもしれない」と答えた者の割合は、占脱が一般群（58.6%）非行群（68.9%）両群とも高く、さらに非行群の少年は、傘等窃盗（30.9%）、自転車盗（29.7%）、万引（19.4%）に対しても比較的高い割合で「一人でもしてしまうかもしれない」と答えている。しかし、他の犯罪行為に対しては、概ね両群とも1割以下であった。

「友達に誘われればしてしまうかもしれない」と答えた者の割合は、一般群の少年が、傘等窃盗（22.3%）占脱（20.0%）の2つの犯罪行為に対してのみ2割以上いたが、非行群の少年では、暴走行為（38.1%）自転車盗（36.1%）傘等窃盗（34.2%）万引（32.7%）器物損壊（22.3%）占脱（21.7%）教師暴力（20.9%）の7つの犯罪行為に対して2割以上の者が「友達に誘われればしてしまうかもしれない」と答えている。

全体的にみると、占脱を除くすべての犯罪行為に対しては一般群非行群両群とも「絶対しない自信がある」と答えている。しかし、占脱に対しては両群とも「一人でもしてしまうかもしれない」と答える者のほうが多い。さらに、友達に誘われたと仮定したとき、特に非行群の少年は、「してしまうかもしれない」と答える者の割合が多くなる傾向がある。

図2-4 犯罪行為（「絶対しない自信がある」と回答した者の割合）

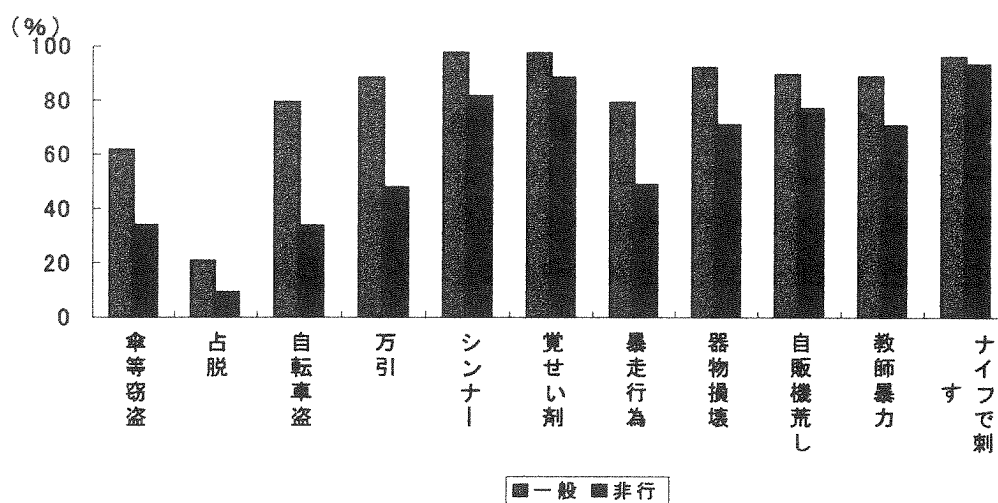


図2-5 犯罪行為（「ひとりでもしてしまうかもしれない」と回答した者の割合）

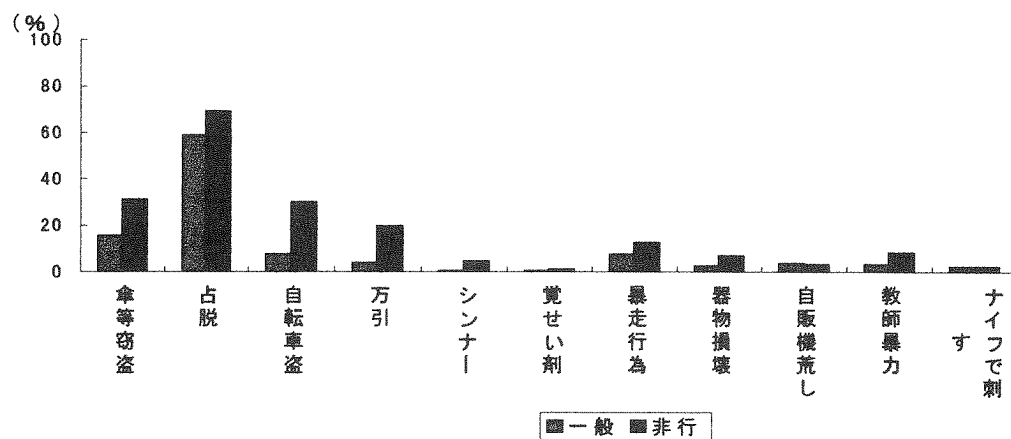
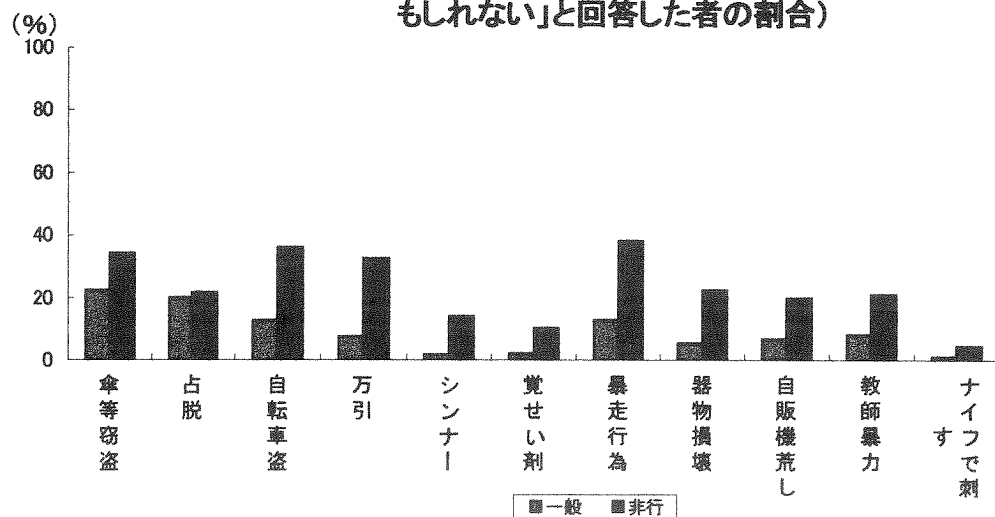


図2-6 犯罪行為（「友達に誘われればしてしまうかもしれない」と回答した者の割合）



(2) 不良行為

不良行為については、次の8の行為について回答を求めた。

- ア 家でタバコを吸う【家で喫煙】
- イ 列車の中でタバコを吸う【外で喫煙】
- ウ 親にかくれて家で酒を飲む【家で飲酒】
- エ 親にかくれて店で酒を飲む【店で飲酒】
- オ 学校で禁止されている髪形や服装をする【服装等違反】
- カ 家出する【家出】
- キ 親に無断で夜遅くまで街で遊ぶ【深夜徘徊】
- ク クラスの者をみんなでいじめる【いじめ】

これらの行為に対して、「絶対しない自信がある」と答えた者の割合の結果を図2-7に、「一人でもしてしまうかもしれない」と答えた者の割合の結果を図2-8に、「友達に誘われればしてしまうかもしれない」と答えた者の割合の結果を図2-9に示した。

不良行為に対して「絶対しない自信がある」と答えた者の割合は、一般群の少年では、列車の喫煙（91.4%）が最も高く、他に、家で喫煙（88.1%）家で飲酒（78.0%）いじめ（77.2%）店で飲酒（73.5%）が7割を超えている。これに対して、非行群の少年では、いじめ（62.7%）が最も高い割合を示しているが、7割には満たない。

「一人でもしてしまうかもしれない」と答えた者の割合は、一般群の少年では、服装等違反が27.6%で一番高い割合を示したが3割に満たない。一方、非行群の少年は、服装等違反に対して半数以上の者が「一人でもしてしまうかもしれない」と答え、他にも、家で喫煙（45.9%）深夜徘徊（34.5%）家出（32.8%）が3割を超えている。

さらに、「友達に誘われればしてしまうかもしれない」と答えた者は、一般群の少年では、3割を超えたのは深夜徘徊（32.7%）のみであるが、非行群の少年は、家で飲酒（27.2%）と家で喫煙（15.5%）を除き、3割以上の少年が「友達に誘われればしてしまうかもしれない」と答えている。

犯罪行為に比べると、不良行為に対しての方が「絶対しない自信がある」と答える割合が低い。一般群非行群両群とも「一人でもしてしまうかもしれない」「友達に誘われればしてしまうかもしれない」と答える少年の割合が犯罪より不良行為に対しての方が割合が高くなっているが、特に非行群の少年はその傾向が顕著である。

図2-7 不良行為(「絶対にしない自信がある」と回答した者の割合)

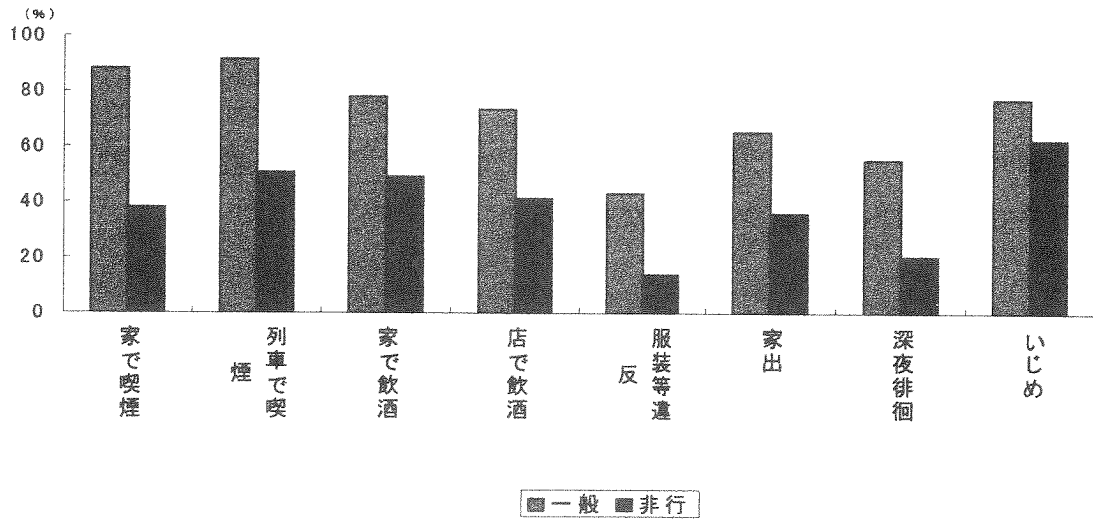


図2-8 不良行為(「一人でもしてしまうかもしれない」と答えた者の割合)

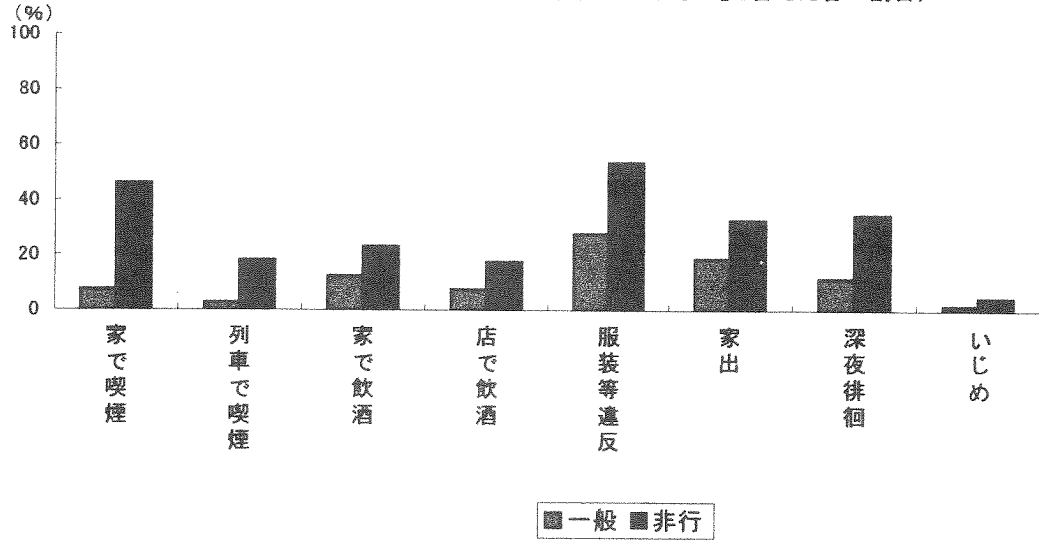


図2-9 不良行為(「友達に誘われればしてしまうかもしれない」と回答した者の割合)

